



父母と学ぶ会だより

NO. 34 研修報告号～H29年11月発行



施設内研修報告

平成29年10月23日(月)

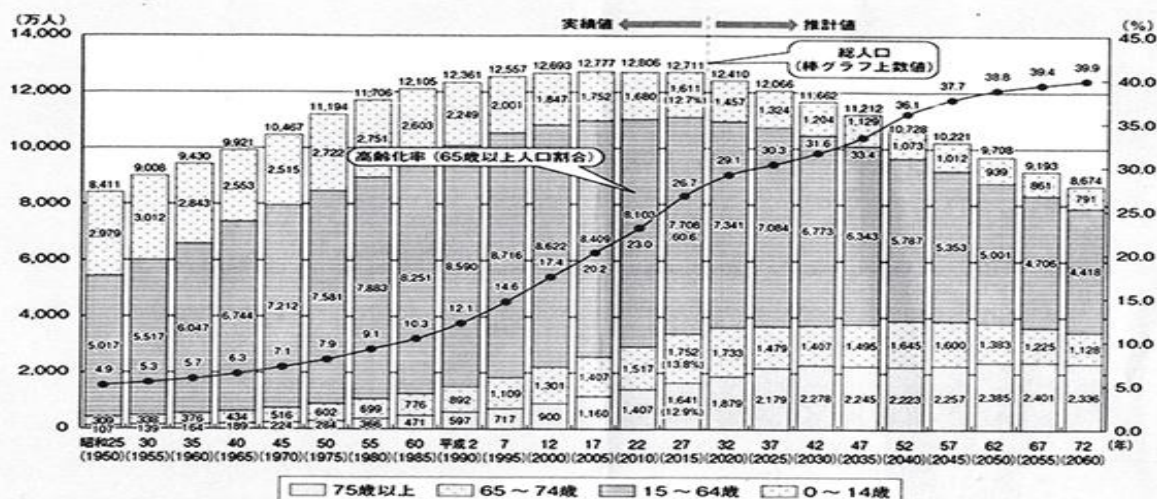
介護予防・障害者支援の在り方について

担当 平井 水永

今回の施設内研修は、①介護予防、②高齢期を迎える障害者への支援の在り方というテーマで行われました。

まず①についてですが、平成27年現在の高齢化率は約26.7%です。平成37年には30%を超えると推計され、今後増々高齢化は進んでいきます。そのための高齢化になっても健康を維持するために「介護予防サービス」が制度として位置づけられています。このサービスは、要介護状態になることを遅らせたり、状態が悪化しないように努めることを目的としています。

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年は総務省「人口推計（平成27年国勢調査人口速報集計による人口を基準とした平成27年10月1日現在確定値）」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位推定による推計結果
(注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

次に②ですが、障害福祉サービスを受けている障害者は、原則65歳になると介護保険サービスに移行することになっていますが、ここに様々な問題があります。介護保険サービスを利用することで、利用できるサービスの時間が減ったり、障害特性の知識が少ない介護職にサービスを受けるといった問題があります。また、平均寿命が延びていますが、これは障害者についてもいえることで、親亡き後の生活場所についても制度が整っているとは言えません。

今後平均寿命が延びてくる中で、障害者の寿命も延びていきます。障害の有無に関係なく、誰もが住み慣れた地域で過ごせる制度や環境を整備していくことが大切だと感じました。
(文責 平井 勝)



研修報告

平成29年10月28日(土)



障害者スポーツ講座

講師 大塚 康夫 氏

障害者スポーツのフライングディスクには、飛距離を競うディスタンスと正確性を競うアキュラシーの2種類があります。

今回は、そのような本格的なスポーツではなく、どのような障害をもっていてもまた、どんなに重い障害をもっていても、工夫次第で誰でも楽しめるスポーツの重要性と実践を学ぶことができました。

「障害のない人はスポーツをした方が良いが、障害のある人はスポーツをしなければならない」ハイツ・フライの言葉があります。体は動かす事により、発汗作用を促し、身体機能を高め生活習慣病予防につながります。ラジオ体操やただ歩くだけでも十分です。毎日行う事が重要だと思います。

第3回の講座は、第31回オレンジマラソン大会です。一番長い距離の1500mなど4種目に80名の参加がありました。足の速い、遅い関係なく、皆懸命に走っている姿に感動しました。機会があれば参加してみたいはいかがでしょうか。

(文責 池田 浩)

研修報告

平成29年8月30日(水)

音楽療法講座

講師 野田 奈津代 氏



音楽療法とは『音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを心身の障害の回復機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容に向けて音楽を意図的・計画的に活用して行われる活療技法である』 日本音楽療法学会

虐待により心を閉ざしてしまったAさん

母親から音楽が好きだった話を聞いた施設の職員は、音楽活動に誘ってみました。最初はその場にいる事が精一杯でしたが、半年経つと体を揺らし次は手拍子、一年後には歌う事が出来るようになりました。これは35年前の実話です。Aさんは「音楽療法」によって閉ざされた心を少しずつ開いていきました。音楽の力は凄いですね。皆さんにも元気になる曲や癒される曲などありませんか？しかし悲しい時に元気になる曲を聴くと孤立を感じ逆効果になるそうです。『同質の原理』といって、悲しい時に悲しい曲を聴く方が回復が早く、歌詞の内容に自分と同じ気持ちがあると共感し、より効果があるそうです。

ゆいまあるでは、音楽活動・トランポピクス・リトミックなど、色んな形で音楽と触れ合う時間があります。今回の講座で学んだことを生かし、皆さんが楽しく笑顔で参加出来るような活動を増やしていきたいです。

(文責 鈴木 美由起)